

デザイナーの野村徹(右)とプロデューサーの治部泰久(左)。二人だけのユニットだ。



家づくりを引き受けたのは…
lia Style(株式会社 FPホーム)

三苦文靖さんと麻貴子さんご夫妻。結婚する前からマイホームを夢見ていた。



家主
三苦さんご夫妻

隔月連載

造る喜び、 住まう喜び。

<http://www.fphome.jp/lia/>

三苦さんの
家づくり

取材協力／lia Style(株式会社 FPホーム)
撮影／上村幸将、治部泰久、本誌編集部

一生に一度の家づくり。 納得のいく施工主を探して

家づくりは失敗できない人生の一大仕事。だからこそ施工者探しには妥協をせず、自分達と同じだけの思い入れを持って最高の『住まい』を考えてくれる相手に出会うことが、とても大切なのである。

今年の夏、札幌市内に夢のマイホームを建てたばかりの三苦文靖さん・麻貴子さんご夫妻。6年前から自分達の本当に望む家を模索し、住宅メーカーを回っては悩む年月が続いたという。——家づくりは夫妻にとってどんな体験だったのか、文靖さんにお話を伺った。

「あらゆる住宅メーカーを検討して相談に回りました。僕達二人は趣味もバラバラですが、二人で時々行くカフェの雰囲気がとても好きだという感覚は一致していたんです。そ

一生に一度あるかないか、後悔できない家づくり。
今まさに検討中の人にもいるだろう。
本誌では今回、理想の家を求めて奔走した、ある夫妻の家づくりに密着。「本当に楽しかった」と、二人が満足した家づくりの全容とは…。

こは白を基調にしたシンプルな空間の中に、アンティークの家具が置いてある落ち着いた雰囲気。こんな感じが理想だねと話していたんです」。

数々の住宅メーカーに相談してみたが、先方から提案される家はどれも何だかしっくり来なかった。どんな間取りにしたいのかと聞かれ、分からないながらも答えると、その通りに図面が上がってくる。

「営業さんはこちらの要望を聞くばかり。『そうすると間取りは何が何畳、何が何畳。お二人の求める家は洋風の家ですから、ドアはこんな感じでどうでしょう』なんて示される写真を見ても、全然イメージと違う。いくつプランを出してもらっても、しっくり来ないんです。次第に家づくりが苦痛になってきてしまっ…」

マイホームを検討し始めてから5年。麻貴子さんがネットで偶然

2011年
11月
打ち合わせ



好きなことや休日の過ごし方などをひたすらお喋り。その会話から得たヒントで、二人に最適な住まいの形が浮かび上がってきた。

2012年
3月～
地鎮祭・着工



4月には基礎工事も完了！
いよいよだ。



まだ雪の残る3月末、晴れ渡る青空の下で地鎮祭が行われた。



模型が完成！果たしてこれがどんな家になるのか…。



パースも完成。北向きの窓、螺旋階段が特徴的だ。



家の中心はやはりダイニング。向かいの樹木を眺めながら、お茶を飲み、食事を愉しみ、会話をつむぐ。

1) 2階のフリースペース。天井際の窓からは手稲山や星空が仰げる。
2) 寝室もシンプルに。朝は南向きの窓から日が燦々と注ぐ。 3) 夜の室内もまた、陰影が美しい。「毎日のように発見がある」と三苦さん。 4) 仕事を終えて家路につく頃、迎えてくれる家の明かりは優しく温かい。



ゆっくりと時が流れ、 会話が生まれる家

8月、待ちに待った夢のマイホームの完成。三苦夫妻はこの『樹望の住まい』で暮らし始めている。編集部もさっそくお邪魔してみた。家に入ってまず目を引かれるのはカーテンウォールと呼ばれる大きな窓。北側の銀杏並木が葉を風に揺らす姿を眺めながら食事したり、お茶を飲みながら会話をを楽しむ夫妻の様子が目に浮かぶ。

「二人ともいつもこのダイニングで過ごしています。カーテンが必要な構造になっているから、一日中外の景色を眺めながら暮らせる。これからは四季折々でいろん

な表情が楽しめそうです」
麻貴子さんがお気に入りだという木製キッチンもまた素晴らしい。木工家具職人と何度も打ち合わせをして完成したという木製のキッチンは、使い勝手と見た目の美しさを細部に到るまで熟考されていることが伝わってくる。

「この家に越して来た夜、一年でも一時間でも長く生きて、この家で過ごしたいねと二人で話しました。毎日を大切に生きて、最後の時は『何かいい人生だったな』と思いつつ、この家で迎えたい」と語る三苦さんご夫妻。
住み手と作り手が『両思い』になり、共に全力で取り組んでこそ、家主の人生観を変えるほどの力を秘めた住まいが生まれる。——そんなことを改めて教えてくれる三苦邸であった。



居心地の良いリビング。オーディオやテレビは、すべてiPadで操作できるシステムを構築。



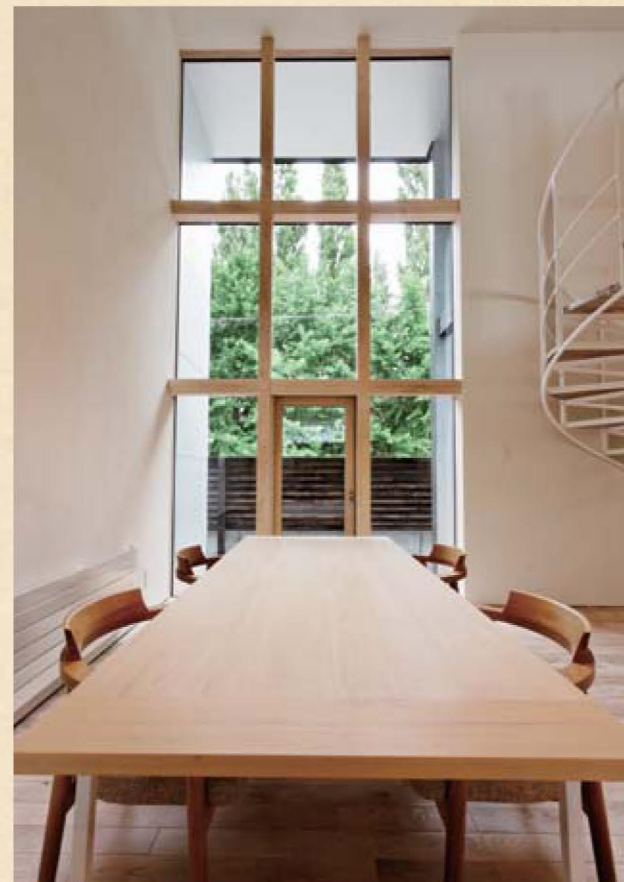
ついに念願の家が完成!



テーブルやキッチンなどの木工家具や、螺旋階段も職人の見事な手仕事。



木工家具職人が麻貴子さんと打ち合わせを重ねて作ったキッチン。「丁寧に暮らそうという気持ちになります」と麻貴子さん。



ダイニングから望むカーテンウォールは、まるで絵のような美しさ。通りから中が見えない高さに塀を設置。

ついに5年ごしの
夢の住まいが完成。
カーテンウォールから
眺める銀杏並木が美しい。

2012年
8月
完成!



2012年
4月～
上棟

順調に工事が進む。文靖さんは腕利きの大工達の仕事を見学しに毎週通ったという。



ハシゴを渡した2階へは、螺旋階段が作られる予定だ。



これがカーテンウォールになる部分。



2012年
7月
仕上げ

床の無垢材に白いオイルを塗る工程は、夫妻も参加。これが思いのほか過酷で汗だく!「でも、いい思い出です」と三苦さん。

各分野の専門家達が集結! チームワークでの家づくり

好きなコトや休日の過ごし方について楽しくお喋り。それが打ち合わせのスタイルだった。何気ない会話から浮かび上がってきたヒントから二人の将来の暮らしを想像し、家の構想を練り上げて行く。「あれこれ話すけど、僕らの要望をあえて聞いて来ないことにも驚きました(笑)」。でも彼らの提案してくれた家は期待を裏切らないどころか、想像以上で……

3月末、『樹望の住まい』と名づけられた三苦邸はついに着工。夫婦の長い夢だったマイホームは、

少しずつ姿を現していく。家づくりを担うのは、腕利きの大工達だけではなかった。木工家具職人、オーディオや暖房設備の専門家、金属加工の職人など、数々のプロフェッショナルが集結し、夫妻と直接打ち合わせを重ねる。着工後も家主はチームの一員として参加するのがiia styleの基本姿勢だ。「設備や作り付けの家具を、どんな人がどういう狙いで造ってくれたのか、どう出来上がっているのか、全て知っている家主なんてあまりいないんじゃないでしょうか。その過程が本当に面白くて、毎週休みの日は現場に張り付いていました(笑)」